

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来積みあげてきた実績に誇りを持つとともに、20周年を契機に、新たに時代のニーズに対応した専門性を構築し、地域等との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の特性や発達の状況に応じた、最も必要で適切な教育実践をめざします。

- 1 未来を見つめながら常にイノベーション推進をめざす学校  
→触育 本物に、地域等に、時代のニーズに触れ合う触育実践をめざします。
- 2 個を大切に、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校  
→職育 自己肯定感を有する、児童生徒を育てる職育実践をめざします。
- 3 豊かな学校力を備え、信頼される安全で安心をめざす学校  
→植育 居場所があり、安全安心を感じ成長する、植育実践をめざします。

## 2 中期的目標

## 1 触育 本物に、地域等に、時代のニーズに触れ合う触育実践をめざします。

(1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り、専門性の向上をめざす。

ア専門性向上のため外部の登用を継続し、「主体・対話的で深い学び」をめざす授業改善に取り組む。 見学者 10%増(前年 10人) →H27-29

イ本物に触れる機会、地域等に触れる機会を計画的に設定し、その実践成果を報告する。 実践数 20%増(前年 10事例) →H29-

ウ更なる ICT 教育・国際理解教育実践を重要目標とし、その実践成果を報告する。 実践数 30%増(前年 5事例) →H29-

\*上記アイウの取組みにより、平成28年度の現状を、毎年 10%以上の増加をめざし、平成31年度には 30%以上の増加とする。

## 2 職育 自己肯定感を有する、児童生徒を育てる(キャリア)職育実践をめざします。

(1) 全(小中高)学部において、整理した「キャリア発達の観点」と「地の利を生かした」実践をめざす。

ア企業と連携した、更なるキャリア体験学習の深化を図る。 →H29-

イ画一的な学習時間の見直し実践を更に進める、特に高等部の教育課程の改善充実に努める。 →H29-

ウ設置したバネリアティネーター(専任)を中核に、地元等と連携し「合理的配慮」の理解と提供を行う支援ネットワークの拡充をめざす。 →H29-

\*上記アイウの取組みにより、平成28年度の現状の実践連携の充実をめざし、平成31年度には実践連携満足度を倍増する。

## 3 植育 居場所があり、安全安心を感じ成長する、植育実践をめざします。又次世代育成をめざします。

(1) 機動力と発信力のある学校改革と支援ボランティア等を活用した人材育成をめざす。

ア運営検討委員会・PTA と連携し新しい試みを考案する。→創立 20 周年記念行事の実践を通して 式典等満足度概ね 80% →H29

イボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。→共有化・意思疎通の促進-清掃活動を例- 新企画実践数倍増(前年 1 回) →H29-

ウバネリアティネーターと連携しながら新しい試みを考案する。→共有化・意思疎通の促進 -読書活動を例- 新企画実践数倍増(前年 1 回) →H29-

\*上記アの取組みにより、現状満足度を、平成29年度には「やってよかった周年行事」という概ね80%満足度とする。

\*上記イウの取組みにより、現状の毎年倍増をめざし、平成31年度には3倍増とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・提出率、保護者 78%→68%、教職員 100%→96%、児童生徒 66%→60% がすべて微減した。提出率が低いと評価の信頼性が低下するのでこれ以上の低下は避けたい。したがって来年度は回収方法などに工夫改善を加える必要がある。</p> <p>・肯定的評価が高い上位 3 項目については教職員、保護者、児童生徒において昨年度とほとんど変化はなく引き続き安定した評価となっている。保護者の意識の中で上位 3 項目に入っていなかった「施設・作業所や企業進路の手引きや説明会などの情報が提供されている」が肯定率の上昇が 6%あった。</p> <p>・教職員で肯定的評価 64%→52%、否定的評価 31%→43%と 10%以上の評価が下がっている「教室や特別教室、職員室は整理整頓されており、清潔に保たれている」については学校評価委員会を中心に特別教室をいままでもよりも整理整頓、清潔に保つための具体的な改善策を検討する必要がある。</p> <p>・教職員の意思疎通について「職員会議、部会、学年会での意思疎通が有効に機能し、教職員の意見が反映されている」肯定 55%→63%、否定 35%→24%と改善しているものの「教職員間に信頼関係があり、日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえている」肯定 70%→69%、否定、23%→25%「授業力向上のために教職員間の授業見学や日々の打ち合わせ、校内の各研修は役立っている」肯定 68%→否定 60%、否定 26%→35%「年間の学習指導計画は、よく話し合っ設定されている」肯定 73%→64%、否定 19%→31%と昨年度よりも下降している。教職員間のコミュニケーションは不可欠のものであり引き続き改善の方策を多方面から検討していく必要がある。</p> <p>・以上の考察から「整理整頓・清潔」「意思疎通」「保護者からの回収率」をキーワードにして次年度の改善に向けて各部会、委員会等で対策を協議していきたい。</p>	<p>第一回学校協議会（7月4日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学（小学部）・学校経営計画について・研修研究計画について</li> <li>・教科書選定について・進路状況報告(平成 28 年度)</li> </ul> <p>授業見学について→よく集中できていた。ICT の活用は必要なので今後もすすめて欲しい。教科書について→教科書を選ぶ観点を教えてほしい。発達年齢、生活年齢の両方が大切・研修計画について→パワーポイントの研修はどのような目的で実施されているのか</p> <p>学校経営計画について→20周年記念式典の内容はどのようなものか。ゼネラルコーディネーターの役割と連携はどのようなものか。ボランティアとの連携とはなにか。</p> <p>進路状況報告について→進路担当の先生の負担がおおきくなっているのではないかな。</p> <p>第二回学校協議会（11月7日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学（中学部）・研修計画の進捗状況について・進路状況について(平成 29 年度)</li> <li>・学校教育自己診断医について</li> </ul> <p>研修計画の進捗状況について→8月の「コミュニケーションの種類」という研修はどのようなものなのか教えてほしい。</p> <p>進路状況について→進路先への引継について教えてほしい。制限ありの福祉サービスについて教えてほしい。職業自立コースの人数は年度によって異なるのか。</p> <p>学校教育自己診断について→集計結果をどのようにまとめて活用するのか教えて欲しい。子どもと保護者の関連性を分析することは可能ですか。質問項目については具体的な見直し策を検討していただき改善されている。回収率が減っているのは残念である。いじめの定義についてはどのように考えているのですか</p> <p>第三回学校協議会（1月23日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学（高等部）・進路状況について・研修研究について・学校教育自己診断医結果について・H29 年度学校評価について H30 年度学校経営計画について</li> <li>・学校運営協議会について</li> </ul> <p>進路状況について→種類の異なる福祉サービスを併用されるケースは今後も増えそうか？併用は、施設が切磋琢磨されるので賛成である。ただ週 1 日の利用では環境への適応など問題点があることを進路決定の段階で触れてほしい。保護者のニーズを詳しく知りたい。</p> <p>研修研究について→具体的な改善策を提案していくのは大変である。研究授業は年度当初より体制を作って授業を見に行けるようにすることが大切である。研修の参加人数は？</p> <p>学校教育自己診断結果について→回収率は別として、情報提供を丁寧に行われることで改善されている。学校経営計画について→平成 29 年度の評価について了承される。平成 30 年度案は教員の自己肯定感やモチベーションを高めるためにメンタルヘルスによる改善に期待したい。メンタルヘルスチェックは企業でも当たり前となってきている。教員の年齢層にも変化があり、学校全体の結果にも影響がでるかもしれない。今後の大きな課題である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>触育 本物に、地域等に、時代のニーズに触れ合う触育実践</p>	<p>(1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り、専門性の向上をめざす。</p> <p>ア 授業力アップのために外部の助言者の支援を得る機会(外部人材の登用)を継続的に設ける。見学者 10%増(前年 10 人)→H27-29</p> <p>イ 本物に触れる機会、地域等に触れる機会を計画的に設定し、その実践成果を報告する。実践数 20%増(前年 10 事例)→H29-</p> <p>ウ 更なる ICT 教育・国際理解教育実践を重要目標とし、その実践成果を報告する。実践数 30%増(前年 5 事例) →H29-</p> <p>* 上記アイウの取組みにより、平成 28 年度の現状を、毎年 10%以上の増加をめざし、平成 31 年度には 30%以上の増加とする。</p>	<p>ア 授業力アップのために外部の助言者の支援を得る機会(外部人材の登用)を継続的に設ける。 ・授業力アップのために「やらされ感のある研修」からの脱却をめざす。</p> <p>イ 本物に触れる機会、地域等に触れる機会を計画的に設定し、その実践成果を報告する。 実践数 20%増(前年 10 事例)→H29-</p> <p>ウ 更なる ICT 教育・国際理解教育実践を重要目標とし、その実践成果を報告する。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年 3 回の「授業研究日の各授業見学者を 10%増やす(H28 10 人/回)</li> <li>・教職員向け学校自己診断結果 No19「授業力向上のため・・・校内研修は役立っている」の肯定率 10%増加</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け学校自己診断結果 No20「・・・校内研修が計画的に実施」の肯定率 10%増加</li> <li>・本物、地域等、ニーズに触れる機会を 20%増やす(H28 10 事例/年)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け学校自己診断結果 No18「PC・大型 TV・ICT 機器は効果的に活用・・・」の肯定率 10%増加</li> <li>・ICT・国際理解教育に触れる機会を 30%増やす(H28 5 事例/年)</li> </ul>	<p>(1) 専門性の向上</p> <p>ア・外部助言者の支援による研究授業 6 回実施。◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援研究部の実施したアンケート調査で肯定的意見が H28 70% H29 82% に。研修目的、参加意識に対して向上がみられ研究授業がテーマに沿った活気あるものになっていたとの評価を外部助言者からいただいた。◎</li> <li>・研究授業の見学者を増やす。○ (H28、10.人/回)(H29、12.人/回)</li> </ul> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断の結果「授業力向上のための校内研修は役立っている。」の肯定率を増やす。 (H28、68% → H29、60%) △</p> <p>「研修は計画的に実施」の肯定率を増やす。 (H28、73% → H29、72%) △</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物に触れる機会を増やす。○ (H28、10.事例→H29、12.事例)</li> </ul> <p>ウ・保護者向け学校自己診断の結果「PC・大型 TV・ICT 機器の効果的活用」の肯定率を増やす。 (H28、63% → H29、65%) ○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT・国際理解教育に触れる機会を増やす。◎ (H28、5 事例 → H29、17 事例)</li> </ul>

府立吹田支援学校

<p><b>職育</b> 自己肯定感を有する児童生徒を育てる職育実践</p>	<p>(1) 全(小中高)学部において、整理した「キャリア発達の観点」と「地の利を生かした」実践をめざす。</p> <p><b>ア</b> 企業と連携した更なるキャリア体験学習の深化を図る。→H29-</p> <p><b>イ</b> 画一的な学習時間の見直し実践を更に進める。→H29-</p> <p><b>ウ</b> 設置したゼネラルコーディネーター(専任)を中核に、地元市・大学と連携し支援ネットワークシステムの拡充をめざす。→H29-</p> <p>*上記アイウの取組みにより、平成28年度の現状の実践連携の充実をめざし、平成31年度には実践連携満足度を倍増する。</p>	<p><b>ア</b> 企業と連携した更なるキャリア体験学習の深化を図る。→H29-</p> <p><b>イ</b> 画一的な学習時間の見直し実践を更に進める。→H29- ・見直し PT(プロジェクト)を設置し、1 学期末までには案をまとめる。 ・2 学期以降に各部署で検証・共有する機会を持つ。</p> <p><b>ウ</b> 設置したゼネラルコーディネーター(専任)を中核に、地元市・大学と連携し支援ネットワークシステムの拡充をめざす。→H29- ・専任 GC(ゼネラルコーディネーター)の活動状況を共有化も含め月に1回はフィードバックを行う。</p>	<p><b>ア</b> 地域の施設等の訪問を年8回以上実施する。</p> <p><b>イ</b> 画一的な学習時間の見直し案を新教育課程も考慮して12月末迄には作成する。</p> <p><b>ウ</b> 教職員向け学校自己診断結果 No17「…校外の関係諸機関との連携は十分…」の肯定率 10%増加</p>	<p>(1) キャリア教育</p> <p><b>ア</b> 企業と連携したキャリア体験学習は1月末現在 60 回を数え活性化している。 ◎</p> <p><b>イ</b> 職業自立コースにおける学習時間の改善は4年目で定着をしており、他のコースも1日選択授業の実施などで対応している。 画一的学習時間の見直しは一定進んだ。 ○ 今後、新指導要領に対応した全コース教育内容の見直しを進める。</p> <p><b>ウ</b> 教職員向け学校教育自己診断の結果「校外の関係機関との連携は十分」の肯定率を増やす。 (H28、68% → H29、70%) ○</p>
<p><b>植育</b> 居場所があり、安全安心を感じ成長する、植育実践</p>	<p>(1) 機動力と発信力のある学校改革と支援ボランティア等を活用した人材育成をめざす。</p> <p><b>ア</b> 運営検討委員会・PTA と連携し新しい試みを考案する。 →創立 20 周年記念行事の実践を通して式典等満足度概ね 80%</p> <p><b>イ</b> ボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。 →共有化・意思疎通の促進-清掃活動を例-新企画倍増(前年 1 回)</p> <p><b>ウ</b> インベーション係会と連携しながら新しい試みを考案する。 →共有化・意思疎通の促進-読書活動を例-新企画数倍増</p> <p>*上記イウの取組みにより、現状の毎年倍増をめざし、平成31年度には3倍増とする。</p>	<p><b>ア</b> 運営検討委員会・PTA と連携し新しい試みを考案する。 →20 周年記念行事の実践を通して式典等満足度 80% ・11/2 迄のアクションプランを1 学期末までに作成する。 ・2 学期以降は各係・関係機関と最終確認を行う。</p> <p><b>イ</b> ボランティアとも連携し新しい試みを考案する。 →共有化・意思疎通の促進-清掃活動を例-新企画倍増 ・見直し PT(プロジェクト)を設置し、1 学期末までには案をまとめる。 ・2 学期以降に各部署で検証・共有する機会を3回以上持つ。</p> <p><b>ウ</b> インベーション係会と連携しながら新しい試みを考案する。 →共有化・意思疎通の促進-読書活動を例-新企画倍増 ・見直し PT(プロジェクト)を設置し、1 学期末までには案をまとめる。 ・2 学期以降に各部署で検証・共有する機会を3回以上持つ。</p>	<p><b>ア</b> 式典終了後に関係者に対して実施するアンケートにおける「やってよかった」満足度 80%以上をめざす。</p> <p><b>イ</b> ボランティア活用清掃活動実践度を倍増させる。(H28 8名/週) ・教職員向け学校自己診断結果 No10「…整理整頓されており、清潔に保たれている」の肯定率 10%増加 ・保護者向け学校自己診断結果 No10「校内は清掃が行き届き清潔感が感じられる」の肯定率 10%増加</p> <p><b>ウ</b> 新しい読書活動を実践させる。</p>	<p>(1) ボランティア等を活用した人材育成</p> <p><b>ア</b> 20 周年記念式典について PTA 役員会、運営委員会、コミュニティ広場など参加者からの感想では「よかった」というものが大半であった。 ○ ・ボランティア参加数 (H28、38 人 → H29、38 人)</p> <p><b>イ</b> 教職員向け学校教育自己診断の結果「整理整頓されており、清潔に保たれている」の肯定率を増やす。 (H28、64% → H29、52%) △ ・保護者向け学校教育自己診断の結果「校内は清掃が行き届き清潔感が感じられる」の肯定率を増やす。 (H28、82% → H29 85%) ○</p> <p><b>ウ</b> インベーション係会と連携しながら新しい活動を考案し実施する。 ・改善すべきことを広く意見集約し、分掌や係りで対応できることは依頼し、改善実施につなげた。職員室書類ロッカー等の耐震補強作業等。 ○</p>